

平成 25・26 年度「学力向上システム開発校」実績報告書（2 年次）

1 学校名等

学 校 名	久御山町立久御山中学校							校長名	光島 正豪	
研究教科・領域等	全教科における授業改善									
研究主題	知恵を耕し、心を耕す授業づくり ～確かな学力の充実と向上を目指して～									
研究の目的	「教師力向上」＝「授業力向上」と位置付け、学校として組織的に「魅力ある授業」づくりを推進し、生徒の学力向上を図る。									
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	5	4	5				2	16	※校長・教頭を含む	
児童生徒数	159	142	159				3	463	34	

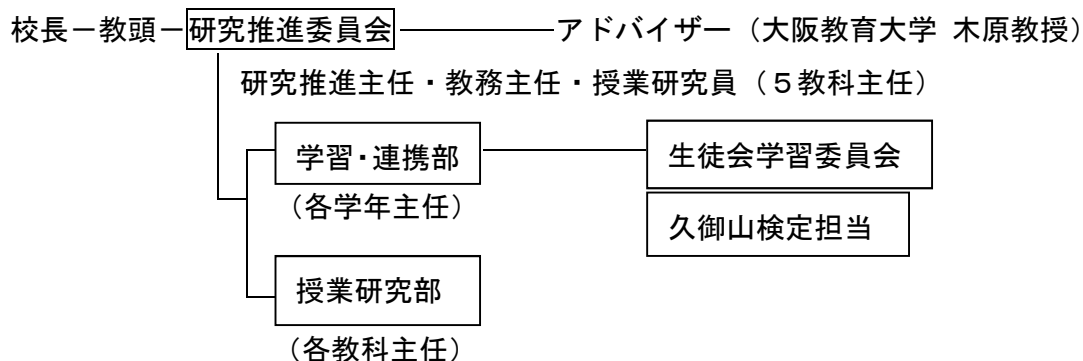
2 研究校の概要

(1) 学力分析

本年度の府学力診断テスト、全国学力・学習状況調査の結果を見ると、どの学年も全ての教科で府平均、全国平均を大きく下回っている。基礎・基本の学習内容が定着していない生徒が多くいる現状があり、基本的な生活習慣がしっかり確立されておらず、学習意欲の低さや家庭学習の習慣もないこと等が一因である。

学校の授業において反復的な学習の取組や基礎・基本の習得のための授業改善とともに、学習意欲の向上を図る取組が必要である。

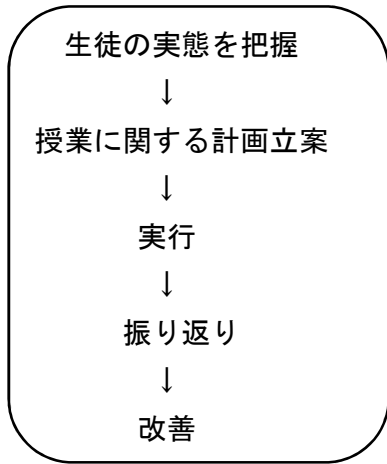
(2) 研究体制



3 主な研究活動

(1) R-PDCA サイクルでの授業力向上に向けた「授業改善プラン」の作成

4月（前期）と8月（後期）に授業改善プランを作成することにより、



という「R-PDCA サイクル」を年2回行うことで、教員の授業改善につなげている。

授業改善プラン RPDCA サイクルによる授業力向上

科 氏名

Research (実態把握) 担当学年に見られる課題や長所 (学力、態度など)

基本 Plan (計画) **Do** (実行) **Check** (評価)

	具体的な取組	取組により予想される理想の生徒の様子	評価 (実践してみてどうだったか)
学習環境の整備のために	授業の始まりにゴミが落ちていないかを必ず確認し、生徒とともに拾い、環境を整える。	きれいな教室で、落ち着いて授業のスタートを切ることができる。	
本時における「付けたい力」を明確に理解させるために			
授業をわかりやすくするために			
生徒の意欲を引き出すために			
生徒が適切に自己評価を行うために			
生徒が「やりたくなるような」家庭学習の工夫			

単元 Plan (計画) **Do** (実行) **Check** (評価)

単元名	その単元で生徒につけたい力	授業改善項目	つけたい力をつけるための取組 (教師の工夫)	評価 (実践してみてどうだったか)

Action (改善) → 2 学期へ

(2) 単元構想表の入った指導案の作成

研究授業の指導案を作成する際に、その単元の目標や計画を明確にし整理することで、毎回の授業の目標、具体的な取組を明確にするということをねらいに、単元構想表の作成に取り組んだ。

(3) 教科の枠を超えた相互授業参観

テーマを複数設定し、選択したテーマに基づいた研究授業を年2回行った。授業公開週間では、同じテーマを選択したグループ内での相互授業参観を行い、授業改善の工夫を交流した。

グループ分けの内容

6月	A 学習環境の整備	B 付けたい力を明確にする	C 授業をわかりやすくする	D 生徒の意欲を引き出す	E 適切な自己評価
11月	A 授業の流れの可視化	B ワークシートの工夫	C 授業内での復習時間の工夫	D 生徒ががんばっている姿の活用	/

(4) 校内研修会

授業公開週間の最終日には校内研修会を設定している。各自が行った授業の工夫をグループ協議で交流し、手法を共有する。

全体会では、プレゼンテーションや模擬授業などで職員全員が授業の工夫を共有するという流れで研修会を行っている。



グループ協議



6月全体会（プレゼン）



11月全体会（模擬授業）

(5) 久御山検定の継続

「生徒の意欲のサイクルを意識した検定を実施することで、主体的に学習する態度を育成する。」ことを目標として、各学期1回、年間3回実施している。

1回ごとの実施教科は3教科とし、検定前数日間は全学年が同じ演習問題を行い、当日は全学年が同じ問題のテストを受ける。85%以上の正解者を検定合格者とし、検定合格証を発行している。また、3教科満点者は全校集会で表彰される。



検定の様子

第1回久御山検定 数学	
① 次の計算をしなさい	
(1) $(-8) + (+4)$	<input type="text"/>
(2) $14 - 6 + 7$	<input type="text"/>
(3) $(-20) \times (-5)$	<input type="text"/>

久御山検定問題（数学）



合格証

(6) 学習委員会の活動

昨年度から生徒の専門委員会「学習委員」の取組として、定期テスト前の家庭学習時間を集計し、一定の時間を行うと進む「テスト勉強の旅」を実施している。学習委員が声かけ、集計を行い、家庭学習を行う雰囲気作りを行った。



テスト勉強の旅



学習委員の様子

学習の手引き作成

「何をどのように勉強すれば良いかわからない」という生徒を対象とした「学習の手引き」を作成した。

「学習の手引き」には各教科の「魅力」「授業の受け方」「ノートの取り方」「家庭学習の方法」「観点別評価でAをとるために」を具体的に記載した。

数 学

～ 解ける喜び、わかる楽しさ、できたときの達成感 ～

◆数学とは
数学とは、ものごとを順序立てて考える力をつけていくための教科です。また、これから生きていく上で、自分の考えを合理的・論理的に説明できる力をつけることも大切です。数学の問題1つを解くために多くの時間と努力を使うこともあります。努力したからこそ味わうことができる達成感や喜びは、数学ならではのものです。わからない問題があれば、あきらめず精一杯努力してみてください。そうすることで、1つ1つ数学の楽しさ・良さを感じ、みなさんが身につけるべき大切なことを学んでいきましょう。

◆授業の受けかた・ポイント

① 授業で出てきた問題の解法を確実に理解しよう
授業の受けかたの中で一番大切にしてほしいことは、先生の話や友達の発表などをよく聞くということです。自分の力で問題を解くためには、解法の大筋なポイントや数式の意味など考え方を理解することが大切です。

② 自分の考えを大切に、問題に精一杯取り組もう
数学の授業では、学習した問題の理解ができているかどうかを確かめるために問題を解く時間が設けられます。そこで、自分の考えを出し切るまで問題と向き合しましょう。問題が解けないときには、自分がどこでつまづいているのかを1つ1つ確認をしましょう。わからないところは、先生や友達に聞いたり、自分自身で解説をじっくり見て理解し直すことで1つ1つ克服していきましょう。

③ 見直したときに役立つノート作りをしよう
数学では、わからない問題や自分の力で一つ一つできるようにしていくことが大切です。ノートを作るときは、式の意味や間違えた問題についての注意点を自由に自分の言葉で書き込んでいきましょう。見直したときに役立つノートを作りましょう。

＜ノートの書き方の例＞

(悪い例)

練習問題①
(1) $(-5)^2 \times 2 = 50 + (-2)$
 $= 50 + 25$
 $= 75 = 25$

答えだけを訂正!

(良い例)

練習問題①
(1) $(-5)^2 \times 2 = 50 + (-2)$ 訂正
 $= 50 + 25$ $= -50 + 25$
 $= 25$ 答え

結果 $(-5)^2 \times (-5)^2 = 25 \times 25$
 $(-5)^2 = 25$ $(-5)^2 = 25$
 $= 25 \times 25 = (-5) \times (-5)$
 $= 25$ 答え

答えだけでなく、間違えたポイントを補って訂正!

◆家庭学習のしかた

① 毎日の復習を大切にしよう
その日授業で学習した内容を一人で解けるか、教科書の問題を使って再度問題を解いてみよう。このときに、問題を解く専用のノート(家庭学習ノート)などを作って、わからない問題はできるだけ復習練習をしよう。

② さらに高い数学力を身につけよう
数学は、様々な見方から問題が作られています。まずは、学校で配布された教科書やワークにしっかり取り組みましょう。また、自分にあった問題集(参考書ではない)を見つけ、様々な問題にチャレンジしていくことで、さらに数学力は高まっていきます。

定期テスト前の勉強
定期テストは、今まで授業で行った内容をどれだけ理解しているかが問われています。全ての問題を解くことを目標にすることも大切ですが、自分が解ける問題を正確に解いていくことが、得点を伸ばすポイントとなります。定期テストでは大きく分けて、「数学的な知識・理解」「数学的な技能」「数学的な見方や考え方」の観点に分かれています。目標とする得点によってテスト勉強に比重をおく観点とその勉強方法を紹介します。

① **基礎・基本の定着を目標にする人は「数学的な知識・理解」に注目**
教科書、ノートに書かれている基本的事項(重要語句など)をしっかりと覚えましょう。
例1 「絶対値」の読み方、意味、表し方
例2 文字式を書くときのきまり(乗法の記号「×」は省く など)

② **標準問題を確実に解けるようになりたい人は「数学的な技能」に注目**
数学的な技能の問題では、主に計算問題を指すことが多いので教科書、ワークの計算問題を確実に解けるようになっておくことが大切です。もちろん、分数や小数を含む計算もできるようにしておくことと更に得点アップにつながります。

③ **応用問題に挑戦したい人は「数学的な見方や考え方」に注目**
応用問題や文章問題と言われる問題を自分の力で解けるようにしましょう。教科書の文章問題から始めて、章末問題、そしてワークの文章問題の順でしっかりと解けるようになっておきましょう。

◆観点別評価で「A」をとるためのポイント

- ・ 関心・意欲・態度・・・ 挙手発表を積極するなど、授業に意欲的に取り組もう! 提出物(ワーク、ノートなど)を完璧にしましょう。
- ・ 見方や考え方・・・ ワークの応用問題(様々な考え方ができる問題)などにチャレンジしましょう。
- ・ 技能・・・ 式の計算やグラフの記入などができるように反復練習しましょう。
- ・ 知識・理解・・・ 重要語句や意味をしっかりと覚え、書けるようにしましょう。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

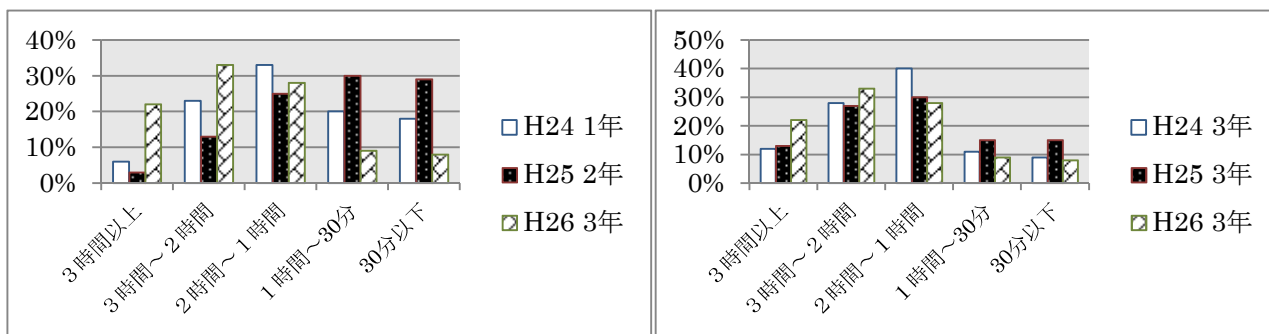
平成 26 年度年間スケジュール

実施時期	研究内容
4 月	本校研究推進の本年度の取組についての提案と意見交流
5 月	前期授業改善プラン作成
6 月	授業公開週間(保護者、町内各校園所、地域) 研究推進研修会(全員が改善テーマに沿って指導案作成と授業公開) 第1回久御山検定実施
8 月	研究推進研修会(学習の手引き原案作成) 後期授業改善プラン作成
11 月	授業公開週間(保護者、町内各校園所、地域) 研究推進研修会(全員が改善テーマに沿って指導案作成と授業公開)
12 月	第2回久御山検定実施
1 月	学習の手引きについての研修 学習の手引き配付 第3回久御山検定実施 久御山学園実践発表会
2 月	学力向上システム開発校交流会

4 今年度の研究の成果と検証

- (1) 12月に実施した生徒向けの生活・意識アンケート、「普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に勉強（宿題、予習・復習、塾での学習、家庭教師の先生に教わっている時間など。）している時間は、1日あたりどのくらいですか。」の結果を、H24からH26の3年間で比較した。

左のグラフは現3年生の3年間の推移であり、1年生時から比較すると、大幅に家庭学習の時間が伸びていることが見て取れる。また、右のグラフは平成24年度から平成26年度までの各年度の3年生の比較である。今年度の3年生は、一番家庭学習に取り組んでいることが見て取れる。これらのことから、取組の効果があったと考えられる。



- (2) 授業改善プランや授業参観、研修を繰り返すことで、教師の授業づくりに対する意識が向上した。
- (3) 学習の手引きを作成し、生徒に配付することができた。
- (4) 久御山検定や、学習委員の取組などで「勉強する」という雰囲気がある程度出来上がってきている。
- (5) 昨年度から行っている授業改善プランや単元構想表の項目整理を行い、転任してきた職員でもすぐに取り組める形に近づいた。

5 今年度の課題

- (1) 京都府学力診断テストや、全国学力・学習状況調査の結果は、全ての学年、教科で府平均を下回っており、今後も教師の授業力の向上とともに、授業と家庭学習のリンクについて研究をすすめていく必要がある。
- (2) 今年度作成した学習の手引きの保護者向けを来年度は作成し、家庭にも学習の啓発を行っていく必要がある。
- (3) 学習委員の取組は、試験前の家庭学習の取組としては定着している。来年度以降は日常的な家庭学習の取組を行っていきたい。

6 研究成果の他校への普及

- (1) 6月と11月に授業公開週間を設定し、取組を広めた。
- (2) 1月に行われた久御山学園実践発表会において、今年度取組の報告を行った。
- (3) 学習の手引きを、町内小学校、近隣の中学校に配付した。